

泉 いずみ

―目次―

表紙「除夜の鐘」

「ネコ通信」野呂小蓮

神について

成長

2021年訪問者数一覧

連載「私の出会った神様たち⑨」

孤児になる②

さとのりの知恵を読む 35 「仏性」

掲示板・お知らせなど

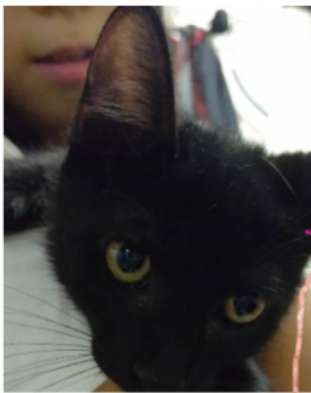
*付録 安泉習字塾生募集



娘らの 気迫の一打 除夜の鐘 博子

今月号は、先月号に引き続き娘の通信を掲載します。どうやら、十二月に掲載して欲しかった通信はこれだそうです。娘の猫好きは、学校でも有名だそうです。家に遊びに来るお友達も、最初は猫に怖がっていても、帰るときは猫好きになっています（笑）そんな娘が作った通信です。（住職）

私のネコは、(ふーくんと、なっちゃん)いつもはしゃぎまわっています。台所にのぼったり、つくえにのったりします。今 12 月で生まれてから 5 カ月です。こんなに小さいのに、すごく足も速く大きいです。でも、かわいいところもあります。私がよんだら、いつも近くにきてくれます。私がソファーに座っていたら、ふーくんと、なっちゃんが私のひざで寝たり、私の顔でスリスリしたいします。ある日は、走ってかべに、ぶつかったりします。すごくおもしろくて、見ていてもあきません。前は、そうじ機をじっと見つめていて私がちゃんとさわったら、**ビクッ**として私の顔らへんまでとんで逃げていきました。月曜日は、雪がふったので、ふーくとなっちゃんを外に出したらさっそく雪がつもっているところに、いきました。雪に足あとがついてかわいかったです。さいごに、私がだっこしてつれてったらぶるぶるふる、ふるえていました。



ふーくん(オス)



なっちゃん(オス)



◆豊田市の中学生が中日新聞に投稿した「自己中心的な『神』疑問」という記事について感想を述べる。その記事を紹介しよう。

◆神とは何だろうか？僕が思うに神は人間が創った存在だ。つまり人間が信じるからこそ神がいることが成り立つのだ。その昔人間は神を信じて、自身、または身近な人、さらに周囲の誰かの命をささげることが何もかも神のためだと考えてきた。それにより集落で、その民はまとまって集団生活することができたのだ。◆しかし現代はどうだろう。人間は神を「自分に運を与えたり、力を与えたりしてくる存在」として、自己中心的な考えで神の地位を低下させている。しかも自分が不運だと感じたなら、それはすべて神のせいにしてしまっている。こんな状態では神だっけきつとたまらない。◆この先かつてのように人間が神を自己中心的なものでなく、この世の全てを創った存在として信じられるようになれば、神は生き返るはずだ。(7月24日、意見欄より)

◆この見事な神についての分析を行った彼はまだ中学生だ。大人に対する痛烈な批判も垣間見え、私は素晴らしいと思った。◆最近の世相は、自分ファースト、家族ファーストで、他人のことや地域のことが見えていない傾向が強くなったと思う。だから、世界全体を平和にするという神本来の神々しい働きは影を潜め、神棚や仏壇に受験票や

宝くじを入れて、お願いするという、とても矮小化された神のご加護を私たちは願う傾向が強い。◆ところで、私たちの集落では、最低限年に二度は全戸そろって神社でお祓いを受ける。集落全員の無事と安寧を願ってみんなは集まるのだ。それはさらには地域全体の繁栄を願う気持ちに通じる。つまり、もっと広い立場から神に祈りをささげるのだ。◆必要だから存在する、というのは異論あるかも知れないが、仏教だって、人間の心の問題に答えるはずのものだから教えが伝えられて広がっていったのだ。◆お釈迦様が作り出した教えではなく、本来宇宙全体に真理としてある教えをお悟りになったのが仏教の根本原理だ。◆神も仏も人間が広い見地から必要だと感知したからこそ、整えられたものである。それを狭いエゴの塊のために悪用してはならない。それは神仏への冒瀆となるだろう。◆何事も総べて自分への糧と受けとめ、運命を受けいれて逞しく生きていく力を神仏からいただこう。



◆お正月、5年生と4年生の孫が、なにげなく会話をしていた。そつと横で聞いていた妻は、その内容を私に教えてくれた。◆「最近、じいじはね、何でも褒めるのは良いのだけれど、私たちが書いた絵とか、一輪車や、スケートなど乗れることを、あんまりよく見てもいないのに、やたら褒めるの、やめてほしいね。」「そうそう、昔からじいじはすごく大きさに褒めるの。『しゅっごいな』」なんてね。小蓮が大きくなっても赤ちゃん言葉で褒めるものだからいやんなっちゃう。◆子どもは鋭い。さらに言葉は続く。「ちゃんと、私たちが成長していることを見て、どこを褒めるのか、ちゃんと決めてから褒めてほしいわね。」「いい加減にしか、見てないのに大きさに褒めてほしくないね。」◆私は今まで自分のモットーとして、褒めて褒めて褒めまくることを心がけてきた。人の欠点は見て見ないふりをしてきた。その方が、人は成長すると考えたからだ。それは年齢を問わない。「お婆ちゃん、その洋服が素敵だね！グレイヘアも良く似合う！」なんて言うと、「またまた、御上手が過ぎるよ。」なんて言いながらも、お婆ちゃんは決して悪い気はしないという風に私は感じた。◆ただ、誰でもものべつまくなしに褒めることはしないつもりだった。私の感性を信じて、心の琴線に触れた時だけ褒めた。◆ところが、孫たちは大した批評家だ。私が正しく評価をしないで、いい加減に褒めていると決めつけた。そして、

次のような言葉をお互いに言い合った。「私たちが正しく成長していることをじいじは知っているのかな？」「いつまでも子ども扱いしてほしくないよね。」◆孫たちの会話を聞きながら、妻は苦笑しながら、この話を私にした。私が気付いたこと。それは孫たちの心の成長ぶりだ。ちゃんと大人になろうとしている。正しく評価をしてほしいと訴えているのだ！私はこれからも孫たちを褒めまくろうと思う。でも、ちゃんと孫の成長ぶりを見届けたうえで、正しく褒めてあげなければならぬ。◆最後に孫たちは言った。「じいじはちつとも成長していないようだね！」って。一本取られたなあ！



2021年安泉寺来訪者数一覧

番号	項目	内 容	人数	昨年比
1	仏事関係	報恩講・永代経・葬儀・法事・月参り・おひもどき・遺族会・偲ぶ会・組会等	208	-226
2	学習関係	習字・寺子屋	614	-387
3	公的集会	和讃講・老人クラブ・環境保全	196	-128
4	防災	ハザード会・自主防災会・マスク	89	-46
5	趣味の会	文芸クラブ・写真クラブ・蓮ワーク・同窓会役員会	70	-83
6	来訪者		67	-132
7	業者	電気工事・屋根修理・コンピュータ等	4	-4
		総計	1248	-1023

講評

◆2020年より約半数に落ち込んでいます。やはり、コロナの影響は甚大なものがありました。◆しかし、地道ながら各活動は続いています。少しでも上向きな回復を願って、努力したいと思います。◆オミクロン株の蔓延が心配されています。終息にはまだまだ時間がかかりそうです。◆永代経や報恩講が皆さんの参加で行われることを願っています。◆何でもコロナのせいにするのは禁物ですが、感染防止の観点から、社会の動向を配慮して、無理のない計画を立てたいと思います。◆寺報はその中で、感染リスクを避けた、コミュニケーションの方法です。是非、ご愛読下さい。

今年目標

◆2022年は再び総計2,000人をめざして、安泉寺に多くの人びとが集っていただけるよう、努力を惜しまない決意です



孤児になる②

◆ところが、相手は警察です。いろいろな子供を見ていますから、だまされはしません。変だなと思っっています。◆二十日目ぐらいだったでしょうか。少年係の刑事さんが、岡持ちを持ってきまして、中から井を取り出しました。プーンといい海苔の匂いがあたりに立ちこめます。これは親子井なのです。僕は気絶しそうになりました。なぜかというところ、その日だけお昼のお弁当が僕の分だけ足りなかったのですよ。三度三度出し屋からお弁当が来るのですが、その日の昼間だけ一個足りないのです。お前は子供だし、一番あとで入ったのだから、追加をしてやるまで我慢をしない、と言ったまんま、二時間経つても三時間経つても来ませんでした。やっと来たのがおいしそうな井でした。◆少年係の刑事さんが言いました。「すまんすまん、忘れとった。でもこれは弁当じゃないよ。待たせた代わりに、特別に親子井というおいしいものをとってやったからな。これを今食わせてやるからな。いい匂いだろ！」◆みんなが食べたのを見たあと、二時間も三時間も待っていたのです。早くしてくれと言おうにも言えませんしね。口がきけないから。だから一生懸命我慢をしております。そしたら刑事

さんが一声調子を張り上げて、「それにしても悪かった。さぞ腹が減っただろう。な、お前！」と言いましたら、その勢いに乗ってしまつて、ついこちらも返事をしてしまいました。(笑)◆これは口がきけるのではないかと言うことで袋叩きにありました。警察に来て、二十日間も狂言をするとは、とんでもない野郎だということでした。こんなやつをほっといたのは将来すごい悪党になるのではないか、いま、たたき直しておこうと言う気持ちがあったのかどうかは分かりませんが、とにかく徹底してたたかれました。◆今は子供がそういう風になると、環境が悪いとか、友達が悪かった、親が片親だったからとか、学校の教育が悪い、政治が悪い、などとみんな人のせいにして、本人がやった悪いことはみんなどこかへ行ってしまふという悪い傾向があるようです。これは、本人を増長させるばかりです。(続く)



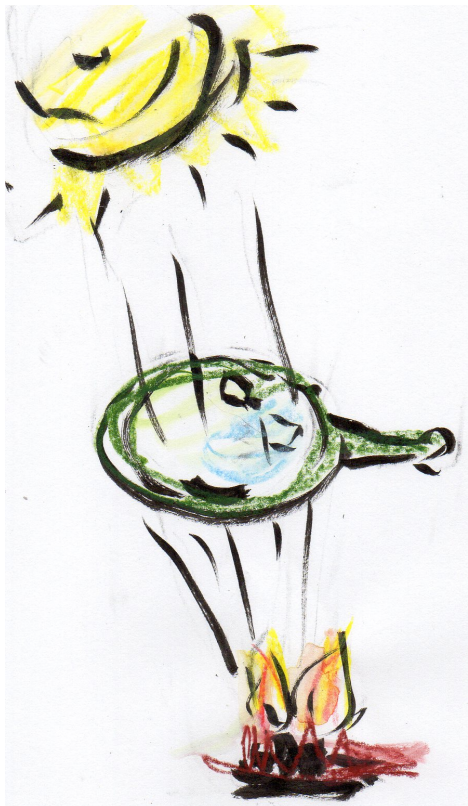
◆清浄の本心とは、言葉を変えていえば仏性である。仏性とは、すなわち仏の種である。◆レンズを取って太陽に向かい、もぐさを当てて火を求めるときに、火はどこから来るのであろうか。太陽とレンズはあいへだたること遠く、合することはできないけれども、太陽の火がレンズを縁とし、もぐさの上に現われたことは疑いを入れない。また、もしも太陽があっても、もぐさに燃える性質がなければ、もぐさに火は起こらない。いま、仏を生む根本である仏性のもぐさに、仏の智慧のレンズを当てれば、仏の火は、仏性の開ける信の火として、人びとというもぐさの上に燃え上がる。◆仏はその智慧のレンズを取って世界に当てられるから、世をあげて信の火が燃えあがるのである。「首楞嚴経」より

◎ブツダになれる性質

◆人という存在をどう見るか、人の心をどのようにとらえるかということは、古今東西の思想家や宗教者が真剣に取り組んできた問題です。◆もちろんさまざまな考え方がありますが、そのなかで、大乘仏教のあるグループが提唱し強調したのが、「すべての人には、仏性（仏と同じ性質）がある」「誰もが必ず、仏となることができる」ということでした。◆この思想は、やがて東アジアの仏教の主流となっていくます。◆そして日本では、温暖な自然や穏やかな四季のめぐりがあったからでしょうが、これにもとづいて、さらに「すべて

のものには仏性がある」「草や木も仏となることができる」「存在するものは、みな、そのまま仏性の現れである」といった思想が生み出されました。◆わかりやすくいえば、「どんな罪を犯した人も、実は仏と少しも変わらない」「一本の樹にも、一輪の花にも、仏と同じ尊さ・美しさがあ

る」「迷いの心はどこにも存在しない」というのです。◆何かほっとさせられる、おらかな人間観、世界観ではないでしょうか。是非、心静かにこの言葉を受け止め、「わたし自身は、何を求めているのか?」「わたし自身の中にも仏性はあるのか?」と、自分に問いかけてみましょう。きっと深い気づきが訪れるのではないのでしょうか。



二月の行事予定

おひもどき	十二日(土)
文芸クラブ	十七日(木)
月参り(お寺で)	二十日(日)

今月の掲示板

念仏は請求書でなく
領収書です

米沢英雄

◆頼む念仏ではありません。感謝の心を伝える念仏です。感謝出来ない時の自分も含めて仏に報告する意味で、領収書なのです

お知らせ

◆安泉寺では毎週土日に習字教室を開いています。年齢を問いません。誰でも参加できます。チラシを入れておきましたので、お読みください

編集後記

◆表紙にありますように、元氣な子どもたちが鐘を撞いてくれました。昨年の除夜の鐘は大盛況でした。孫が友達に招待状を出したところ家族全員で来てくれたからです。

本堂は撞き終わった家族数十名で溢れました。鍋いっぱい用意した御ぜんざいや甘酒がまたたく間になくなりました。お菓子やミカンも自由にとって行ってもらいました。年が明けてからも、みんな楽しくお話していました。スタッフ一同、充実感で一杯になりました。孫ネットワークは絶大な効果をもたらし、楽しい大晦日の行事は終わりました。

◆三月の被災地訪問は延期になりました。オミクロン株の驚異的な蔓延によるものです。一月の下見もできません。様子を見て夏休みまできないかもしれません。すでに研修のための寄付金は三十万円を超えました。被災地の方からも頂きました。心より感謝いたします。同時にこの貴重な浄財をきちんと皆様方にお返しする意味でも、ハザード会としてしっかりと活動していきたいと思えます。ありがとうございます。(老僧記)